

平成28年度

掛川市・袋井市病院企業団  
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員

掛袋病企監第5号  
平成29年7月26日

掛川市・袋井市病院企業団  
企業長 宮 地 正 彦 様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 横 山 茂 明

監査委員 鈴 木 英 司

平成28年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計  
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、平成28年度掛川市・袋井市  
病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

# 目 次

	ページ
第1 審査の対象	1
第2 審査の期間	1
第3 審査の方法	1
第4 審査の結果及び意見	1
1 審査の結果	1
2 審査の意見	1
第5 決算の概要	4
1 業務の執行状況	4
2 予算の執行状況	7
3 経営成績の状況	10
4 財政の状態	17
5 未処理欠損金の処理について	18
第6 キャッシュ・フロー計算書	19
第7 参考資料（ 附表1～3）	21

## 注 記

- 1 千円単位で表示した金額は、原則として百円単位を四捨五入した。そのため差額又は合計金額が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、原則として小数点第2位を四捨五入（ただし、99.95％～99.99％のものは、99.9％としている。）し表示したため、合計比率が一致しない場合がある。また決算書等、他書類と一致しない場合もある。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。  
「0.0」 ----- 該当数値はあるが表示単位未満のもの  
「△」 ----- マイナスのもの

# 平成28年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

## 第1 審査の対象

平成28年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

## 第2 審査の期間

平成29年5月29日から平成29年7月26日までの間

## 第3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合规性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼をおき、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

## 第4 審査の結果及び意見

### 1 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、正確であると認められた。

### 2 審査の意見

全国初の市立病院同士の統合から4年を経過し、平成27年の「救命救急センター」の指定に続き、平成28年8月に「地域医療支援病院」の承認を得られたことは、中東遠地域の基幹病院として、地域の医療機関と連携を図り、質の高い医療の提供に努められた結果である。また、平成29年2月には、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入する等、先進医療を提供するための医療機能の強化に努められたことは高く評価できる。

運営状況では、一日平均入院患者数は前年度比 14.6人（3.4%）増加し 442.7人となり、病床利用率は 88.5%と前年度比 2.9ポイント上昇した。また、一日平均外来患者数は前年度比 14.8人（1.2%）減少し 1,267.9人となった。

診療単価では、入院は診療報酬のマイナス改定の影響により 59,377円と前年度比 912円の減少、外来はがん治療にともなう高額薬剤の使用の増加により 13,144円と前年度比 404円の増加となった。医師一人当たりの診療単価は前年度比 17,529円の減少となった。

医業収益（税抜）では、入院収益が前年度比 146,102千円（1.5%）増加し 9,593,493千円、外来収益が前年度比 78,574千円（2.0%）増加し 4,049,563千円となった。入院収益は、医師数の増加により患者数は増加したが、診療報酬のマイナス改定の影響と手術件数の減少により、見込みより伸びなかった。外来収益は、前年度より患者数は減少したものの、がん治療にともなう高額薬剤の使用の増加により増収となった。医業収益は診療科における医師の適正配置が大きく影響することから、今後においても関係機関との連携により、医師の確保等による医療体制の強化と医業収益の増加に向けた取り組みを進められたい。

医業費用（税抜）では、前年度比 391,761千円（2.6%）増加し、15,592,755千円となった。主な要因は、職員数の増加による給与費の増、患者数の増及びがん治療にともなう高額薬剤の使用の増により材料費が増加したことによるものである。

当年度の経常収支（税抜）は、収益 16,373,912千円、費用 16,382,756千円で、当年度経常損失は 8,843千円となった。これに特別利益 15,034千円、特別損失 9,029千円を加えた最終純損失は 2,839千円となり、前年度比 597,919千円改善された。主な要因は、建設改良の整備に対する繰入金について、補助金と同様に収益化を行う会計処理に変更したことから、医業外収益における長期前受金戻入が前年度比 758,537千円増となり、純損失が圧縮されたためである。今後も、経営の効率化を図り、「中東遠総合医療センター改革プラン」の目標である平成32年度までの経常収支黒字化に向け、更なる経営改善に尽力されたい。

企業債については、前年度比 894,464千円減少し、未償還残高は 17,818,628千円となっている。今後も高額な高度医療機器の導入が予定されていることから、医療機器等購入による起債については、企業債の償還額を上回ることはないよう留意し、更なる債務の低減に努められたい。

資本金は、建設改良の整備に対する繰入金の収益化にともなう会計処理の変更により、議会の議決を経て 1,568,691千円の減資を実施し、繰越欠損金に充当したことにより、1,302,075千円となった。これにより、平成28年度末未処理欠損金は 1,124,957千円となり、資本合計は 177,118千円となった。

今後とも、急性期医療を中心とした高度な医療の提供に努め、中東遠圏域において中心的な役割を果たすとともに、より一層の経営の効率化を図り、地域住民に信頼される病院経営に努められることを期待するものである。

## 第5 決算の概要

### 1 業務の執行状況（予算書第2条関係・業務の予定と実績対比）

#### (1) 病床の利用状況

区 分	平成28年度	平成27年度	比較増減	平成27年度県平均
病 床 数 (床)	500	500	0	-
病 床 利 用 率 (%)	88.5	85.6	2.9	79.3
平均在院日数 (日)	10.5	10.2	0.3	16.7

- ・ 許可病床数は 500床、病床利用率は 88.5%で、前年度対比 2.9ポイント上昇した。
- ・ 平均在院日数は10.5日と前年度県平均対比 6.2日短く、病床利用率の向上に影響している。

#### (2) 患者数の状況

(単位:人、%)

区 分	平成28年度			平成27年度	増 減		
	当初予定量	補正後	実績 ①	実績 ②	①-②	伸び率	
利用患者数	457,665	462,525	469,669	468,400	1,269	0.3	
内 訳	入院患者数	158,775	158,775	161,569	156,702	4,867	3.1
	(診療実日数)	365日	365日	365日	366日	△1日	
外 来	外来患者数	298,890	303,750	308,100	311,698	△3,598	△ 1.2
	(診療実日数)	243日	243日	243日	243日	0日	
一日平均入院患者数	435.0	435.0	442.7	428.1	14.6	3.4	
一日平均外来患者数	1,230.0	1,250.0	1,267.9	1,282.7	△ 14.8	△ 1.2	

- ・ 利用患者数の実績数は 469,669人で、前年度対比 1,269人(0.3%)増加した。  
内訳は、入院患者数が 4,867人の増加、外来患者数が 3,598人の減少となっている。
- ・ 利用患者数の多い診療科は、入院で内科 23,912人、循環器内科 20,308人、整形外科 19,481人、  
外来では、内科 53,805人、整形外科 28,121人、眼科 20,433人、産婦人科 20,373人となっている。
- ・ 呼吸器内科及び循環器内科は医師の増員により、入院・外来とも患者数が増加している。
- ・ 外来患者数の減少が多い診療科は、泌尿器科、神経内科、救急科の順となっている。  
その要因は、医師の減員や担当課の変更等によるものである。

[ 資料 1 ]

地域別延べ患者数(入院・外来)

平成28年度

(単位:人、%)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
入院	90,262	40,476	11,537	7,532	3,179	1,759	5,006	1,818	161,569
外来	170,314	73,586	26,510	13,398	6,980	4,482	9,867	2,963	308,100
計	260,576	114,062	38,047	20,930	10,159	6,241	14,873	4,781	469,669
構成比	55.5	24.3	8.1	4.5	2.2	1.3	3.2	1.0	100.0
月平均	21,715	9,505	3,171	1,744	847	520	1,239	398	39,139

平成27年度

(単位:人、%)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
入院	85,685	40,616	11,551	6,680	2,895	1,731	5,889	1,655	156,702
外来	169,984	78,605	25,663	13,211	6,766	4,922	9,713	2,834	311,698
計	255,669	119,221	37,214	19,891	9,661	6,653	15,602	4,489	468,400
構成比	54.6	25.5	7.9	4.2	2.1	1.4	3.3	1.0	100.0
月平均	21,306	9,935	3,101	1,658	805	554	1,300	374	39,033



(3) 建設改良の執行状況 (消費税含む)

ア 資産購入費                      予定額 634,613千円                      実績額 525,300千円

〔主な有形固定資産の購入〕

器械備品

・ SPECT装置(診断用CT搭載型)一式(放射線診断科)	90,800 千円
・ e-文書システム一式(経営戦略室)	64,800 千円
・ X線TV装置一式(診療放射線室)	32,630 千円
・ X線TV装置一式(人間ドック・健診センター)	17,620 千円
・ 遠心型血液成分分離装置一式(血液内科)	12,400 千円
・ マルチカラーレーザー一式(眼科)	12,000 千円

什器備品

・ ICLS/ACLSトレーニングシミュレーター一式(教育研修センター)	3,560 千円
・ 滅菌コンテナ一式(手術センター)	1,765 千円

イ リース資産購入費                      予定額 43,260千円                      実績額 43,260千円

〔主なリース資産の購入〕

・ 生化学分析装置(検査室)	8,152 千円
・ 血球分析、塗抹標本(検査室)	5,929 千円

## 2 予算の執行状況（消費税含む）

### (1) 収益的収入及び支出（第3条関係）

#### ア 収益的収入の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算		決 算	執行率	増減額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 病院事業収益	15,517,923	16,433,240	16,451,715	100.1	18,475
第1項 医業収益	14,704,541	14,827,499	14,800,760	99.8	△26,739
第1目 入院収益	9,764,662	9,764,662	9,593,859	98.3	△170,803
第2目 外来収益	3,825,792	3,948,750	4,052,399	102.6	103,649
第3目 その他医業収益	848,877	848,877	845,637	99.6	△3,240
第4目 他会計負担金	265,210	265,210	308,865	116.5	43,655
第2項 医業外収益	813,381	1,605,139	1,635,922	101.9	30,783
第3項 特別利益	1	602	15,034	2,497.3	14,432

- ・ 病院事業収益は、予算額 16,433,240千円に対し、決算額 16,451,715千円と 18,475千円増となり、執行率は 100.1%となった。
- ・ 医業収益では、予算額に対し入院収益が 170,803千円の減、外来収益が 103,649千円の増、他会計負担金が 43,655千円の増となり、総額で 26,739千円減少した。

#### イ 収益的支出の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算		決 算	執行率	不用額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 病院事業費用	16,442,923	16,565,729	16,439,442	99.2	126,287
第1項 医業費用	15,824,378	15,892,548	15,781,004	99.3	111,544
第2項 医業外費用	603,803	657,838	649,408	98.7	8,430
第3項 特別損失	9,742	10,343	9,029	87.3	1,314
第4項 予備費	5,000	5,000	0	0	5,000

- ・ 病院事業費用は、予算額 16,565,729千円に対し、決算額 16,439,442千円と 126,287千円の不用額が生じた。
- ・ 不用額の主なものは、次のとおりである。

（医業費用）	予算現額	決算額	不用額
経費	2,487,240 千円	2,419,180 千円	68,060 千円
減価償却費	1,716,422 千円	1,697,520 千円	18,902 千円
（医業外費用）	予算現額	決算額	不用額
雑損失	256,336 千円	253,440 千円	2,896 千円
院内保育園運営費	72,266 千円	69,822 千円	2,444 千円

(2) 資本的収入及び支出（第4条関係）

ア 資本的収入の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算		決 算	執行率	増減額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 資本的収入	1,249,088	1,249,088	1,174,852	94.1	△74,236
第1項 企業債	400,000	400,000	399,300	99.8	△700
第2項 出資金	848,824	0	0	0	0
第3項 貸付資金返還金	264	264	2,664	1,009.1	2,400
第4項 負担金	0	848,824	772,888	91.1	△75,936

- ・ 資本的収入の決算額は1,174,852千円で、予算額に対して74,236千円減となり、執行率は94.1%となった。
- ・ 負担金は建設改良の整備に対する繰入金の会計処理の変更により、出資金を全額減額し、同額を負担金に組み替えたことによるものである。
- ・ 負担金は予算額848,824千円に対し、決算額772,888千円で、差引75,936千円の減となった。要因は、医療機器の契約差金の発生や購入の取り止め等により減額となったためである。

イ 資本的支出の執行状況

(単位:千円、%)

区 分	予 算		決 算	執行率	不用額
	当 初	現 額	金 額		
第1款 資本的支出	2,014,837	2,014,837	1,905,133	94.6	109,704
第1項 建設改良費	677,873	677,873	568,560	83.9	109,313
第2項 企業債償還金	1,293,764	1,293,764	1,293,764	99.9	0.0
第3項 投資	43,200	43,200	42,810	99.1	390

- ・ 資本的支出の決算額は1,905,133千円で、109,704千円の不用額が生じ、執行率は94.6%となった。
- ・ 建設改良費の支出内容は、主に医療機器等の購入によるものである。
- ・ 投資の支出内容は、医学生及び看護学生に対する修学資金貸付金である。

ウ 資本収支状況

資本的収入が資本的支出に不足する額730,281千円は、

当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	1,909 千円
過年度分損益勘定留保資金	728,372 千円

で補てんされている。

(3) 企業債の発行と償還状況(第6条関係)

(単位:千円、%)

区 分	27年度末残高	28年度借入額	28年度借入利率	28年度償還額	28年度末残高
企業債	18,713,092	399,300	0.01	1,293,764	17,818,628

当年度は 399,300千円を借入し、1,293,764千円を償還したため、未償還残高は 17,818,628千円となった。借入限度額は医療機器等整備事業 400,000千円、借入利率は5.0%以内と定められており、範囲内である。

(4) 一時借入金 (第7条関係)

一時借入金の限度額は 1,500,000千円であるが、当年度は一時借入金は発生していない。

(5) 議会の議決を要する経費の流用 (第9条関係)

職員給与費及び交際費の流用は、議会の議決を経なければならない経費であるが、当年度の流用はなかった。

	予算現額	決算額
(1) 職員給与費	8,303,200 千円	8,301,903 千円
(2) 交 際 費	740 千円	443 千円

(6) たな卸資産 (第10条関係)

たな卸資産の限度額は 3,306,318千円であるが、購入額は 3,241,251千円であり、限度額の範囲内である。

購入額内訳:	薬 品	1,747,526 千円
	診療材料	1,493,725 千円

### 3 経営成績の状況（消費税除く）

#### (1) 経営収支の状況

（単位：千円、％）

区 分	平成28年度		平成27年度		増減額	伸び率	
	金額	構成比	金額	構成比			
収 入	医業収益 (1)	14,742,481	90.0	14,461,194	94.2	281,287	1.9
	入院収益	9,593,493	58.5	9,447,391	61.5	146,102	1.5
	外来収益	4,049,563	24.7	3,970,989	25.9	78,574	2.0
	その他医業収益	790,560	4.8	773,432	5.0	17,128	2.2
	他会計負担金	308,865	1.9	269,381	1.8	39,484	14.7
	医業外収益 (2)	1,631,432	10.0	884,180	5.8	747,252	84.5
	うち 負担金交付金	645,183	3.9	682,287	4.4	△37,104	△ 5.4
	うち 長期前受金戻入	877,256	5.4	118,719	0.8	758,537	638.9
	特別利益	15,034	0.1	4,643	0.0	10,391	223.8
	計 (A)	16,388,946	100.0	15,350,016	100.0	1,038,930	6.8
支 出	医業費用 (3)	15,592,755	95.1	15,200,994	95.3	391,761	2.6
	うち 給与費	8,279,195	50.5	7,957,889	49.9	321,306	4.0
	うち 材料費	3,273,981	20.0	3,210,888	20.1	63,093	2.0
	うち 経 費	2,264,948	13.8	2,281,852	14.3	△16,904	△ 0.7
	うち 減価償却費	1,697,520	10.4	1,686,533	10.6	10,987	0.7
	医業外費用 (4)	790,001	4.8	738,645	4.6	51,356	7.0
	うち 支払利息及び 企業債取扱諸費	246,226	1.5	247,453	1.6	△1,227	△ 0.5
	うち 雑損失	437,546	2.7	411,138	2.6	26,408	6.4
	特別損失	9,029	0.1	11,136	0.1	△2,107	△ 18.9
	計 (B)	16,391,785	100.0	15,950,774	100.0	441,011	2.8
経常損益 (1+2)-(3+4)=(C)	△8,843	-	△594,265	-	585,422	-	
当年度純損益 (D)=(A)-(B)	△2,839	-	△600,758	-	597,919	-	
前年度繰越欠損金 (E)	2,690,809	-	2,090,051	-	600,758	-	
減資額 (F)	1,568,691	-	0	-	1,568,691	-	
当年度未処理欠損金 (D)+(E)+(F)	1,124,957	-	2,690,809	-	△1,565,852	-	
総収支比率 (A)÷(B)	99.9		96.2		3.7	-	
医 業 損 益 (1)-(3)	△850,274	-	△739,800	-	△110,474	-	
医業収支比率 (1)÷(3)	94.5		95.1		△ 0.6	-	

(注)平成28年度は償却資産の取得に係る繰入金の収益化処理の変更により算出したものであり、項目によっては単純比較はできない

- ・ 経常損失は 8,843千円となり、特別利益、特別損失を加えた最終純損益は 2,839千円の赤字となった。
- ・ 最終純損益で前年度対比 597,919千円改善された主な要因は、医業外収益の長期前受金戻入が前年度対比 758,537千円増加したことによるものである。  
これは、建設改良の整備に対する繰入金について、収益化を行う会計処理に変更したためである。
- ・ 医業損失は 850,274千円で、前年度の 739,800千円に比べ 110,474千円の増となった。
- ・ 経営上最も重視される医療業務活動の能率効果を測定する医業収支比率は 94.5%となり、前年度対比 0.6ポイント低下した。
- ・ 当年度未処理欠損金 1,124,957千円は、1,568,691千円減資し、前年度繰越欠損金に充当したことによる。

[ 資料 2 ]

病院収入と両市からの収益的収入への繰入金決算額の状況は、次表のとおりである。

経常収支と繰入金決算額の推移

(単位:千円、%)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	前年度 比較増減
経常収益	12,742,159	14,675,063	15,345,373	16,373,912	1,028,539
うち医業収益 ①	11,112,741	13,659,654	14,461,194	14,742,481	281,287
経常費用	13,925,097	15,484,156	15,939,639	16,382,756	443,117
うち医業費用 ②	13,296,722	14,771,796	15,200,994	15,592,755	391,761
医業損益 ①－②	△ 2,183,981	△ 1,112,142	△ 739,800	△ 850,274	△ 110,474
経常損益	△ 1,182,938	△ 809,093	△ 594,265	△ 8,843	585,422

両市からの繰入金(3条)	1,616,412	981,861	951,668	954,048	2,380
繰入金を除く経常損益	△ 2,799,350	△ 1,790,954	△ 1,545,933	△ 962,891	583,042
繰入金／経常収益(%)	12.7	6.7	6.2	5.8	△ 0.4

両市からの繰入金決算額の推移

(単位:千円)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	前年度 比較増減	
両市からの繰入金	1,666,412	1,726,110	2,726,110	1,726,936	△ 999,174	
内	収益的収入 (3条)	1,616,412	981,861	951,668	954,048	2,380
	掛川市	936,382	573,669	555,799	557,050	1,251
	袋井市	680,030	408,192	395,869	396,998	1,129
訳	資本的収入 (4条)	50,000	744,249	1,774,442	772,888	△ 1,001,554
	掛川市	30,200	447,239	1,077,383	464,215	△ 613,168
	袋井市	19,800	297,010	697,059	308,673	△ 388,386

自治体病院事業に要する経費のうち、

- ① その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費  
例:救急医療の確保、保健衛生行政事務に要する経費など
- ② 病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費  
例:病院の建設改良に要する経費、高度医療の経費など

については、地方公営企業法により、地方公共団体が負担するものとされている。

※ 平成27年度は両市から追加出資 1,000,000千円を受け入れている。

(2) 医業収益の状況

ア 患者の一人・一日当たりの診療収入(診療単価)

入院

算式	平成28年度		平成27年度		比較増減
入院収益(千円)	9,593,493	59,377 円	9,447,391	60,289 円	△ 912 円
年延入院患者数(人)	161,569		156,702		

外来

算式	平成28年度		平成27年度		比較増減
外来収益(千円)	4,049,563	13,144 円	3,970,989	12,740 円	404 円
年延外来患者数(人)	308,100		311,698		

- ・ 診療単価は、入院は診療報酬改定のマイナス影響等により 912円の減額、外来はがん治療にともなう高額薬剤の使用の増加により 404円の増額となった。

イ 医師及び看護師の一人・一日当たりの診療収入(診療単価)

医師

算式	平成28年度		平成27年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	9,593,493	9,447,391	279,558 円	△ 10,893 円
	年延医師数(人)	35,708	33,794		
外来	外来収益(千円)	4,049,563	3,970,989	177,008 円	△ 6,636 円
	年延医師数(人)	23,769	22,434		
入院+外来		439,037 円	456,566 円	△ 17,529 円	

- ・ 入院、外来を合計した医師一人当たりの診療単価は、前年度対比 17,529円の減額となった。

看護師

算式	平成28年度		平成27年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	9,593,493	9,447,391	50,055 円	1,005 円
	年延看護師数(人)	187,886	188,739		
外来	外来収益(千円)	4,049,563	3,970,989	31,689 円	688 円
	年延看護師数(人)	125,076	125,310		
入院+外来		83,437 円	81,744 円	1,693 円	

- ・ 入院、外来を合計した看護師一人当たりの診療単価は、前年度対比 1,693円の増額となった。

ウ 職員一人当たりの医業収益(年間)

算式	平成28年度		平成27年度		比較増減
医業収益(千円)	14,742,481	17,741 千円	14,461,194	17,809 千円	△ 68 千円
損益勘定職員数(人)	831		812		

※損益勘定職員数には、血液内科医師である企業長を含む。

- ・医業収益は 前年度対比 281,287千円の増加となったが、損益勘定職員数が 19人増加したため、職員一人当たりの医業収益は、68千円の減額となった。

エ 入院・外来別の診療収入内訳表

(単位:千円、%)

区 分	平成28年度		平成27年度		増減額	伸び率	
	金 額	構成比	金 額	構成比			
入 院	入院料	4,456,194	46.5	4,222,952	44.7	233,242	5.5
	処置・手術	2,366,180	24.7	2,487,079	26.3	△ 120,899	△ 4.9
	注射	485,766	5.1	517,035	5.5	△ 31,269	△ 6.0
	検査	548,132	5.7	509,755	5.4	38,377	7.5
	放射線	300,584	3.1	295,459	3.1	5,125	1.7
	給食	251,171	2.6	244,289	2.6	6,882	2.8
	投薬	152,803	1.6	147,340	1.6	5,463	3.7
	その他	1,032,663	10.8	1,023,482	10.8	9,181	0.9
	計	9,593,493	100.0	9,447,391	100.0	146,102	1.5
外 来	検査	898,727	22.2	876,327	22.1	22,400	2.6
	放射線	779,357	19.2	804,664	20.3	△ 25,307	△ 3.1
	処置・手術	536,434	13.2	580,050	14.6	△ 43,616	△ 7.5
	注射	860,815	21.3	735,215	18.5	125,600	17.1
	再診料	151,601	3.7	154,650	3.9	△ 3,049	△ 2.0
	初診料	115,998	2.9	121,349	3.1	△ 5,351	△ 4.4
	投薬	63,464	1.6	42,577	1.1	20,887	49.1
	その他	643,168	15.9	656,157	16.5	△ 12,989	△ 2.0
	計	4,049,563	100.0	3,970,989	100.0	78,574	2.0
入院・外来 計	13,643,056	-	13,418,380	-	224,676	1.7	

- ・入院診療収入は、処置・手術で 120,899千円減少したものの、患者数の増加及び地域医療支援病院承認による入院料の加算等により、146,102千円(1.5%)の増収となった。
- ・外来診療収入は、がん治療にともなう高額な注射薬の使用の増加により、78,574千円(2.0%)の増収となった。



オ その他医業収益の状況

(単位:千円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	伸び率
室料差額収益	126,391	124,139	2,252	1.8
公衆衛生活動収益	195,999	193,756	2,243	1.2
医療相談収益	348,811	337,716	11,095	3.3
受託検査施設利用収益	2,671	2,539	132	5.2
その他医業収益	116,688	115,282	1,406	1.2
合 計	790,560	773,432	17,128	2.2

・ 公衆衛生活動収益 (健康診断・予防接種収益他)

主なものとして	予防接種	65,315 千円
	妊婦健診	51,170 千円
	一般健康診断	28,423 千円

・ 医療相談収益 (人間ドック収益他)

人間ドック (日帰り 10,143人、一泊 38人)	335,300 千円
脳ドック (299人)	10,039 千円
PETがん検診 (31人)	3,472 千円

・ その他医業収益

主なものとして	文書料	48,159 千円
	新生児介補料	27,640 千円
	病院職員健康診断料	15,233 千円

(2) 医業費用の状況

ア 給与費の状況

(単位:千円、%)

区 分	平成28年度	平成27年度	増減額	伸び率
医 業 収 益 ①	14,742,481	14,461,194	281,287	1.9
医 業 費 用 ②	15,592,755	15,200,994	391,761	2.6
給 与 費 ③	8,279,195	7,957,889	321,306	4.0
(うち退職給付費)	448,810	455,089	△6,279	△ 1.4
対医業収益比 (③÷①)	56.2	55.0	—	1.2
対医業費用比 (③÷②)	53.1	52.4	—	0.7

- ・対医業収益比率は 前年度対比 1.2ポイント上昇し、56.2%となった。
- ・給与費が前年度対比 4.0%増加した主な要因は、職員数の増加及び人事院勧告にともなう手当等の差額支給によるものである。

職員数の状況(各年度3月31日現在)

(単位:人)

	医師	医療 技術員	看護師	事務部門	技術労務 部門	計	非常勤
平成28年度	97	134	509	63	28	831	225
平成27年度	90	128	508	55	31	812	224
増 減	7	6	1	8	△3	19	1

- ・医師 7人、事務部門 8人が増員となり、前年度対比 19人増加した。

医師推移(年間平均在職者数)

(単位:人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度比較 増減
医師年間平均在職者数	85.2	89.5	92.3	97.8	5.5

- ・医師の年間平均在職者数は、前年度対比 5.5人増加した。

イ 材料費の状況

(単位:千円、%)

	平成28年度		平成27年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
材料費	3,273,981	100.0	3,210,888	100.0	63,093
薬品費	1,843,794	56.3	1,756,852	54.7	86,942
診療材料費	1,385,169	42.3	1,417,305	44.1	△32,136
医療消耗備品費	38,441	1.2	29,678	0.9	8,763
給食材料費	6,577	0.2	7,053	0.2	△476

- ・材料費は 3,273,981千円で、前年度対比 63,093千円増加した。主な要因は、抗がん剤等の高額な薬剤の使用量が増加したためである。

ウ 医業経費の状況

経費のうち金額の大きなもの

(単位:千円、%)

	平成28年度		平成27年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経費	2,264,948	100.0	2,281,852	100.0	△16,904
うち 委託料	1,293,662	57.1	1,277,530	56.0	16,132
うち 賃借料	266,811	11.8	253,898	11.1	12,913
うち 負担金	204,946	9.0	241,912	10.6	△36,966
うち 光熱水費	172,016	7.6	203,611	8.9	△31,595

- ・経費は 2,264,948千円で、前年度対比 16,904千円減少した。主な要因は、派遣職員数の減にともなう負担金の減額と原油価格下落等により光熱水費が抑制されたことによるものである。

主な委託業務

医療機器保守業務	266,543 千円
医事業務	258,456 千円
給食業務	209,608 千円
施設設備保守業務	162,952 千円

#### 4 財政の状態

資産・負債及び資本の状態を前年度と比較した貸借対照表は、次のとおりである。

(単位:千円、%)

区 分	平成28年度		平成27年度		増減額	伸び率	
	金額	構成比	金額	構成比			
資産	固定資産	17,250,550	81.6	18,463,128	85.3	△1,212,578	△ 6.6
	流動資産	3,898,625	18.4	3,174,776	14.7	723,849	22.8
資産合計		21,149,175	100.0	21,637,903	100.0	△488,728	△ 2.3
負債	固定負債	17,417,919	82.4	18,312,952	84.6	△895,033	△ 4.9
	流動負債	3,047,301	14.4	2,531,841	11.7	515,460	20.4
	繰延収益	506,838	2.4	613,153	2.8	△106,315	△ 17.3
	計	20,972,057	99.2	21,457,946	99.2	△485,889	△ 2.3
資本	資本金	1,302,075	6.2	2,870,766	13.3	△1,568,691	△ 54.6
	剰余金	△1,124,957	△ 5.3	△2,690,809	△ 12.4	1,565,852	△ 58.2
	計	177,118	0.8	179,957	0.8	△2,839	△ 1.6
負債資本合計		21,149,175	100.0	21,637,903	100.0	△488,728	△ 2.3

(注)平成28年度は償却資産の取得に係る繰入金の収益化処理の変更により算出したものであり、項目によっては単純比較はできない。

##### (1) 資産の状態

当年度の資産総額は 21,149,175千円となり、前年度対比 488,728千円減少した。

主な増減の内訳

・固定資産(減価償却の実施による)

建物 11,937,157 千円 (523,744千円減)

器械備品 2,992,510 千円 (639,829千円減)

・流動資産

現金預金 1,457,896 千円 (670,236千円増)

貯蔵品回転率

(単位:円、回)

算 式	平成28年度		平成27年度		比 較
期首貯蔵+当年度購入-期末貯蔵	3,279,558,493	21.2	3,216,447,892	21.1	0.1
(期首貯蔵+期末貯蔵)÷2	154,597,841		152,607,854		

・貯蔵品の回転率は前年度対比 0.1回増加し、21.2回となった。

## (2) 負債の状態

当年度の負債は 20,972,057千円となり、前年度対比 485,889千円減少した。

主な増減の内訳

### ・固定負債

企業債	16,387,171 千円	(1,032,157千円減)
引当金	744,002 千円	(237,734千円増)

### ・流動負債

未払金	1,056,934 千円	(348,992千円増)
-----	--------------	--------------

## (3) 資本の状態

資本金は、償却資産の取得に係る繰入金の会計処理の変更により、議会の議決を経て資本金 1,568,691千円の減資を実施し、1,302,075千円となった。

剰余金は、資本金の減資分 1,568,691千円を繰越欠損金に充当し、△1,124,957千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本の合計は 177,118千円で、債務超過は生じていない。

## 5 未処理欠損金の処理について

当年度未処理欠損金 1,124,957千円については、全額を翌年度繰越欠損金としている。

## 第6 キャッシュ・フロー計算書

### 1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(単位：千円)

項 目	平成28年度	平成27年度	増 減
1 当年度純損益	△ 2,839	△ 600,758	597,919
2 減価償却費	1,697,520	1,686,533	10,987
3 固定資産除却費	6,994	575	6,419
4 過年度損益修正額	△ 10,781	0	△ 10,781
5 長期貸付金返済免除額	4,190	0	4,190
6 長期貸付金貸倒引当金の増減額	16,860	0	16,860
7 長期前払消費税勘定償却	3,982	3,018	964
8 長期前受金戻入額	△ 877,256	△ 118,719	△ 758,537
9 長期前受金戻入額消費税調整額	△ 1,948	0	△ 1,948
10 受取利息及び受取配当金	△ 211	△ 220	9
11 支払利息	246,226	247,453	△ 1,227
12 未収金の増減額	△ 68,853	△ 93,085	24,232
13 たな卸資産の増減額	△ 12,686	8,706	△ 21,392
14 前払金の増減額	678	△ 9,307	9,985
15 退職給付引当金の増減額	237,734	153,194	84,540
16 賞与引当金の増減額	31,134	14,387	16,747
17 法定福利費引当金の増減額	5,733	5,923	△ 190
18 未収金貸倒引当金の増減額	27,248	5,844	21,404
19 未払金の増減額	106,877	△ 126,984	233,861
20 預り金の増減額	△ 8,093	9,557	△ 17,650
小 計	1,402,508	1,186,117	216,391
1 利息及び配当金の受取額	211	220	△ 9
2 利息の支払額	△ 246,226	△ 247,453	1,227
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,156,493	938,885	217,608

### 2 投資活動によるキャッシュ・フロー

1 有形固定資産の取得による支出	△ 223,926	△ 287,687	63,761
2 補助金等による収入	0	4,900	△ 4,900
3 繰入金による収入（他会計負担金）	772,888	0	772,888
4 長期貸付金の貸付による支出	△ 42,810	△ 42,870	60
5 長期貸付金の返還による収入	2,664	984	1,680
投資活動によるキャッシュ・フロー	508,816	△ 324,673	833,489

### 3 財務活動によるキャッシュ・フロー

1 一時借入金の返済による支出	0	△ 455,228	455,228
2 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	399,300	195,100	204,200
3 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 1,293,764	△ 1,246,028	△ 47,736
4 リース債務の返済による支出	△ 43,260	△ 43,260	0
5 長期未払金の返済による支出	△ 57,349	△ 57,349	0
6 他会計からの出資による収入	0	1,774,442	△ 1,774,442
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 995,073	167,676	△ 1,162,749

資金増減額	670,236	781,888	△ 111,652
-------	---------	---------	-----------

資金期首残高	787,660	5,771	781,889
--------	---------	-------	---------

資金期末残高	1,457,896	787,660	670,236
--------	-----------	---------	---------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支(キャッシュ・フロー)を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは 1,156,493千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは 508,816千円プラス、財務活動によるキャッシュ・フローは 995,073千円のマイナスとなった。

これにより、資金期末残高は 1,457,896千円となった。

第7 参考資料

附表 1

最近3カ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率

(単位：人、%)

区 分	入 院				外 来				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年度 差・伸び率	平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年度 差・伸び率	
内 科	患者数	22,622	24,821	23,912	△909	48,788	52,543	53,805	1,262
	構成比	14.6	15.8	14.8		15.8	16.9	17.5	
	すう勢比率	100.0	109.7	105.7	△3.7	100.0	107.7	110.3	2.4
神経内科	患者数	6,471	5,996	6,898	902	11,143	11,860	9,454	△2,406
	構成比	4.2	3.8	4.3		3.6	3.8	3.1	
	すう勢比率	100.0	92.7	106.6	15.0	100.0	106.4	84.8	△20.3
呼吸器内科	患者数	11,874	11,328	16,767	5,439	7,498	7,576	10,364	2,788
	構成比	7.7	7.2	10.4		2.4	2.4	3.4	
	すう勢比率	100.0	95.4	141.2	48.0	100.0	101.0	138.2	36.8
消化器内科	患者数	16,411	15,129	15,059	△70	19,952	17,778	15,888	△1,890
	構成比	10.6	9.7	9.3		6.5	5.7	5.2	
	すう勢比率	100.0	92.2	91.8	△0.5	100.0	89.1	79.6	△10.6
循環器内科	患者数	15,304	18,125	20,308	2,183	15,492	16,595	17,243	648
	構成比	9.9	11.6	12.6		5.0	5.3	5.6	
	すう勢比率	100.0	118.4	132.7	12.0	100.0	107.1	111.3	3.9
外 科	患者数	13,763	13,466	14,036	570	17,750	18,112	17,883	△229
	構成比	8.9	8.6	8.7		5.8	5.8	5.8	
	すう勢比率	100.0	97.8	102.0	4.2	100.0	102.0	100.7	△1.3
呼吸器外科	患者数	0	104	0	△104	0	189	110	△79
	構成比	0	0.1	0		0	0.1	0.0	
	すう勢比率	100.0	—	—	皆減	100.0	—	—	△41.8
整形外科	患者数	20,221	20,534	19,481	△1,053	29,840	28,157	28,121	△36
	構成比	13.0	13.1	12.1		9.7	9.0	9.1	
	すう勢比率	100.0	101.5	96.3	△5.1	100.0	94.4	94.2	△0.1
リウマチ科	患者数	0	0	47	47	1,861	1,992	2,422	430
	構成比	0	0	0.0		0.6	0.6	0.8	
	すう勢比率	100.0	—	—	皆増	100.0	107.0	130.1	21.6
脳神経外科	患者数	14,972	16,199	14,769	△1,430	14,656	14,178	12,813	△1,365
	構成比	9.7	10.3	9.1		4.8	4.5	4.2	
	すう勢比率	100.0	108.2	98.6	△8.8	100.0	96.7	87.4	△9.6
小 児 科	患者数	5,122	5,262	5,660	398	16,972	18,916	19,979	1,063
	構成比	3.3	3.4	3.5		5.5	6.1	6.5	
	すう勢比率	100.0	102.7	110.5	7.6	100.0	111.5	117.7	5.6
産婦人科	患者数	8,559	7,853	8,160	307	17,656	18,397	20,373	1,976
	構成比	5.5	5.0	5.1		5.7	5.9	6.6	
	すう勢比率	100.0	91.8	95.3	3.9	100.0	104.2	115.4	10.7
泌尿器科	患者数	6,528	5,794	5,374	△420	14,463	14,037	11,048	△2,989
	構成比	4.2	3.7	3.3		4.7	4.5	3.6	
	すう勢比率	100.0	88.8	82.3	△7.2	100.0	97.1	76.4	△21.3
皮 膚 科	患者数	1,574	1,904	2,286	382	12,192	13,017	14,120	1,103
	構成比	1.0	1.2	1.4		4.0	4.2	4.6	
	すう勢比率	100.0	121.0	145.2	20.1	100.0	106.8	115.8	8.5
眼 科	患者数	2,283	2,210	2,113	△97	20,154	20,881	20,433	△448
	構成比	1.5	1.4	1.3		6.5	6.7	6.6	
	すう勢比率	100.0	96.8	92.6	△4.4	100.0	103.6	101.4	△2.1
耳 鼻 いんこう科	患者数	5,031	4,232	3,971	△261	13,569	12,225	11,748	△477
	構成比	3.2	2.7	2.5		4.4	3.9	3.8	
	すう勢比率	100.0	84.1	78.9	△6.2	100.0	90.1	86.6	△3.9
放 射 線 診 断 科	患者数	0	0	19	19	7,127	7,907	7,611	△296
	構成比	0	0	0.0		2.3	2.5	2.5	
	すう勢比率	100.0	—	—	皆増	100.0	110.9	106.8	△3.7
麻 酔 科	患者数	4	0	3	3	3,851	3,572	3,815	243
	構成比	0.0	0	0.0		1.3	1.1	1.2	
	すう勢比率	100.0	—	75.0	皆増	100.0	92.8	99.1	6.8
歯科口腔 外 科	患者数	2,094	2,011	1,881	△130	12,909	12,974	12,205	△769
	構成比	1.3	1.3	1.2		4.2	4.2	4.0	
	すう勢比率	100.0	96.0	89.8	△6.5	100.0	100.5	94.5	△5.9
精 神 科	患者数	0	0	0	0	0	7	31	24
	構成比	0	0	0		0	0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	—	—	—	100.0	—	—	342.9
救 急 科	患者数	2,178	1,734	825	△909	22,142	20,785	18,634	△2,151
	構成比	1.4	1.1	0.5		7.2	6.7	6.0	
	すう勢比率	100.0	79.6	37.9	△52.4	100.0	93.9	84.2	△10.3
計	患者数	155,011	156,702	161,569	4,867	308,015	311,698	308,100	△3,598
	構成比	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	101.1	104.2	3.1	100.0	101.2	100.0	△1.2

(注) すう勢比率は、平成26年度を基準年度とした。



附表 2

最近3カ年の診療科別収入の構成比と患者一人当たり収入金額（消費税抜き）

区 分		診 療 収 入 (単位：千円、%)							
		平成26年度		平成27年度		平成28年度		対前年度	
		金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	比較増減	伸び率
内 科	入院	992,347		1,224,651		1,224,838		187	0.0
	外来	817,195		917,471		971,531		54,060	5.9
	計	1,809,542	14.2	2,142,123	16.0	2,196,369	16.1	54,246	2.5
神経内科	入院	280,847		273,874		324,849		50,975	18.6
	外来	143,208		153,549		126,886		△26,663	△17.4
	計	424,055	3.3	427,423	3.2	451,735	3.3	24,312	5.7
呼吸器内科	入院	501,627		540,092		781,360		241,268	44.7
	外来	129,389		148,414		251,458		103,044	69.4
	計	631,016	4.9	688,506	5.1	1,032,818	7.6	344,312	50.0
消化器内科	入院	712,759		691,271		688,322		△2,949	△0.4
	外来	286,069		271,460		248,764		△22,696	△8.4
	計	998,828	7.8	962,732	7.2	937,086	6.9	△25,646	△2.7
循環器内科	入院	1,371,048		1,578,524		1,646,629		68,105	4.3
	外来	217,246		236,187		231,863		△4,324	△1.8
	計	1,588,294	12.5	1,814,710	13.5	1,878,491	13.8	63,781	3.5
外 科	入院	1,035,307		965,026		984,718		19,692	2.0
	外来	352,194		376,341		386,032		9,691	2.6
	計	1,387,501	10.9	1,341,367	10.0	1,370,750	10.0	29,383	2.2
呼吸器外科	入院	0		10,312		0		△10,312	皆減
	外来	0		2,143		1,313		△830	△38.7
	計	0	0	12,456	0.1	1,313	0.0	△11,143	△89.5
整形外科	入院	1,213,077		1,246,243		1,236,142		△10,101	△0.8
	外来	211,146		205,243		219,184		13,941	6.8
	計	1,424,223	11.2	1,451,487	10.8	1,455,326	10.7	3,839	0.3
リウマチ科	入院	0		0		3,731		3,731	皆増
	外来	52,095		58,667		70,195		11,528	19.6
	計	52,095	0.4	58,667	0.4	73,927	0.5	15,260	26.0
脳神経外科	入院	1,076,931		1,126,300		971,186		△155,114	△13.8
	外来	151,393		141,366		126,291		△15,075	△10.7
	計	1,228,324	9.6	1,267,666	9.4	1,097,477	8.0	△170,189	△13.4
小 児 科	入院	231,081		250,043		271,115		21,072	8.4
	外来	172,132		191,647		217,336		25,689	13.4
	計	403,213	3.2	441,690	3.3	488,451	3.6	46,761	10.6
産婦人科	入院	498,045		463,018		502,883		39,865	8.6
	外来	92,518		91,635		97,605		5,970	6.5
	計	590,563	4.6	554,653	4.1	600,488	4.4	45,835	8.3
泌尿器科	入院	417,942		379,052		317,130		△61,922	△16.3
	外来	238,219		276,644		228,384		△48,260	△17.4
	計	656,161	5.1	655,697	4.9	545,514	4.0	△110,183	△16.8
皮 膚 科	入院	61,636		69,890		94,440		24,550	35.1
	外来	74,607		84,779		94,510		9,731	11.5
	計	136,243	1.1	154,669	1.2	188,950	1.4	34,281	22.2
眼 科	入院	186,165		182,910		150,191		△32,719	△17.9
	外来	171,699		204,744		190,415		△14,329	△7.0
	計	357,864	2.8	387,654	2.9	340,606	2.5	△47,048	△12.1
耳 鼻 いんこう科	入院	250,250		214,146		208,909		△5,237	△2.4
	外来	117,794		108,037		101,556		△6,481	△6.0
	計	368,044	2.9	322,184	2.4	310,465	2.3	△11,719	△3.6
放 射 線 診 断 科	入院	0		0		2,160		2,160	皆増
	外来	110,463		134,621		139,308		4,687	3.5
	計	110,463	0.9	134,621	1.0	141,468	1.0	6,847	5.1
麻 酔 科	入院	286		0		150		150	皆増
	外来	26,397		25,702		26,611		909	3.5
	計	26,683	0.2	25,702	0.2	26,761	0.2	1,059	4.1
歯科口腔 外 科	入院	109,058		107,856		108,394		538	0.5
	外来	86,673		82,193		77,429		△4,764	△5.8
	計	195,731	1.5	190,050	1.4	185,823	1.4	△4,227	△2.2
精 神 科	入院	0		0		0		0	—
	外来	0		0		0		0	—
	計	0	0	0	0	0	0	0	—
救 急 科	入院	116,777		124,180		76,344		△47,836	△38.5
	外来	251,730		260,144		242,894		△17,250	△6.6
	計	368,507	2.9	384,324	2.9	319,238	2.3	△65,086	△16.9
計	入院	9,055,183	71.0	9,447,391	70.4	9,593,493	70.3	146,102	1.5
	外来	3,702,167	29.0	3,970,989	29.6	4,049,563	29.7	78,574	2.0
	計	12,757,350	100.0	13,418,380	100.0	13,643,056	100.0	224,676	1.7

患者一人当たり収入（単位：円、%）				
平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年度	
			比較増減	伸び率
43,866	49,339	51,223	1,884	3.8
16,750	17,461	18,057	596	3.4
25,340	27,689	28,261	572	2.1
43,401	45,676	47,093	1,417	3.1
12,852	12,947	13,421	474	3.7
24,075	23,937	27,626	3,689	15.4
42,246	47,678	46,601	△1,077	△2.3
17,256	19,590	24,263	4,673	23.9
32,574	36,421	38,068	1,647	4.5
43,432	45,692	45,708	16	0.0
14,338	15,269	15,657	388	2.5
27,468	29,256	30,280	1,024	3.5
89,588	87,091	81,083	△6,008	△6.9
14,023	14,232	13,447	△785	△5.5
51,575	52,267	50,025	△2,242	△4.3
75,224	71,664	70,157	△1,507	△2.1
19,842	20,779	21,587	808	3.9
44,029	42,478	42,945	467	1.1
0	99,156	0	△99,156	皆減
0	11,340	11,938	598	5.3
0	42,510	11,938	△30,572	△71.9
59,991	60,692	63,454	2,762	4.6
7,076	7,289	7,794	505	6.9
28,450	29,810	30,573	763	2.6
0	0	79,392	79,392	皆増
27,993	29,451	28,982	△469	△1.6
27,993	29,451	29,942	491	1.7
71,930	69,529	65,758	△3,771	△5.4
10,330	9,971	9,856	△115	△1.2
41,458	41,731	39,790	△1,941	△4.7
45,115	47,519	47,900	381	0.8
10,142	10,131	10,878	747	7.4
18,250	18,268	19,051	783	4.3
58,190	58,961	61,628	2,667	4.5
5,240	4,981	4,791	△190	△3.8
22,528	21,130	21,045	△85	△0.4
64,023	65,422	59,012	△6,410	△9.8
16,471	19,708	20,672	964	4.9
31,259	33,064	33,219	155	0.5
39,159	36,707	41,312	4,605	12.5
6,119	6,513	6,693	180	2.8
9,897	10,366	11,517	1,151	11.1
81,544	82,765	71,080	△11,685	△14.1
8,519	9,805	9,319	△486	△5.0
15,950	16,788	15,107	△1,681	△10.0
49,742	50,602	52,609	2,007	4.0
8,681	8,837	8,645	△192	△2.2
19,787	19,577	19,751	174	0.9
0	0	113,687	113,687	皆増
15,499	17,026	18,304	1,278	7.5
15,499	17,026	18,541	1,515	8.9
71,582	0	49,897	49,897	皆増
6,855	7,195	6,975	△220	△3.1
6,922	7,195	7,009	△186	△2.6
52,081	53,633	57,626	3,993	7.4
6,714	6,335	6,344	9	0.1
13,046	12,683	13,192	509	4.0
0	0	0	0	—
0	0	0	0	—
0	0	0	0	—
53,616	71,615	92,539	20,924	29.2
11,369	12,516	13,035	519	4.1
15,152	17,067	16,406	△661	△3.9
58,416	60,289	59,377	△912	△1.5
12,019	12,740	13,144	404	3.2
27,552	28,647	29,048	401	1.4

附表 3  
経営分析表

分析項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算式	説明
固定資産構成率	%	89.6	85.3	81.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成率	%	87.4	84.6	82.4	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成率	%	△4.5	0.8	0.8	$\frac{\text{資本金+剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本の割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	108.0	99.8	104.7	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	△1,996.1	10,259.7	9,739.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流動比率	%	75.6	125.4	127.9	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	70.1	118.7	122.0	$\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	当座資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	0.2	31.1	47.8	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	現金・預金と流動負債の割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	△15.0	△35.5	82.6	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金、剰余金} + \text{期末資本金、剰余金}) \div 2}$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	0.7	0.8	0.8	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率のあまり高いのはよくない。
減価償却率	%	8.4	9.1	9.8	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流動資産回転率	回	6.1	5.3	4.2	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	流動資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	6.6	6.7	6.6	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2}$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	△4.0	△2.7	0.0	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	94.2	96.2	100.0	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	92.5	95.1	94.5	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.2	1.3	1.3	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債、一時借入金} + \text{期末企業債、一時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	71.4	73.9	76.2	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。